

## 世の中に色のないものはない！ だから食いつぶげれない！

大学卒業を目前にした段階でまだ就職が決まっていなかった。どうするの？と母からは詰められたのですが、塗装屋の気持ちもそのときにはかなり薄れていて、フリーターでもしたらいいくらいでした。すると父が「世の中に色のないものはない！だから食いつぶげれない！萩野塗装で仕事をするためにまず修行してこい！」と猛然と言ってきました。高校3年間、大学5年間は空手のことしか考えていない人生を送っていたので、父の言っていることは分かるような分からないような…でも食いつぶげなく楽しんで稼げるならさうしようかなと父のいう通り修行にでることにしました。

今から考えるとどうしようもないアホボンですね…として父の知り合いの会社に入ったのですが、倉庫を無理やりに入社切りのした3畳一間のタコ部屋に住み込みで働き、現場と自宅を往復する生活が始まりました。

しかしその会社は当時の私がみてもヤバイ状態、何の修行にもならないと父に相談すると名古屋の会社を紹介してくれ移ることにしました。その会社が50億ほどの商売をしている中部圏で一番の会社でした。まずは職人としての仕事、次に職人兼現場管理、そして営業とどんな仕事を任されていき、塗装業界の課題も含めておおきな視野で業務全般をみる事ができるようになっていきました。そんなときに今の妻と出会い、27歳で結婚することを機に実家に戻ることになりました。妻の実家は春日井、土地勘もなく遠い小松に嫁入りということで妻のご両親はかなり反対さ



2



5



3



4

1.撮影日はまさに萩野さんの笑顔のような快晴! 2.会社の壁には社員さんとの強い繋がりを感じさせる多数の写真 3.塗装業の常識を覆すスタイリッシュなロゴ 4.塗装を芸術の域に高めるべく練習をした塗りあと 5.萩野さんのキャラクターに相応しい明るい色のネクタイ

れたのですが「春日井と小松、アメリカだった隣町ですよー近いですー」と説得するとなぜか納得してもらえました(笑)。

萩野塗装に戻った時、これはえらいところに帰ってきたよーとさう思いました。前職と比較するとまず会社の雰囲気がよくない。笑い声がなく殺伐としている。数字のことはまだ分からなかったのですが、売上3億くらいで借入れ2億を超えている、死ぬなら事故で死んでね！と本気とも冗談ともつかない感じで経理のおばちゃんに私に言ってくる。これが自分たちのやりかただからと自己流に固執している。後継者という色眼鏡で見られるからアクビ一つも会社ですると父からは忠告され、とにかく息苦しい…会社にいけば父が怒鳴っている声が聞こえ、周りは委縮している。私自身もまだまだ知識もないなかで何をどうしたらいいのか？もまったく見えません。私の得意技としたら持前の明るさで場を盛り上げることだけ、大学時代の4年神様、3年貴族、2年平民、1年奴隷の超封建的タテ社会に比べたらまだマシと自分を言い聞かせ、雰囲気を感じても良くしようと思いついていました。

そんなときに石川県中小企業家同友会に誘われ入会しました。いろいろな経営者の素晴らしい話を聞き、さまざまな提案を父にするのですが「そのうちしよか」みたいな気のな返事。自分がずっと社長でいる。生涯現役のつもり、俺がやるからお前うるさいみたいな対応でしたので葛藤が大きくなっていきました。もともと活力ある会社に変えたい、最初は楽しんで儲かるからくらいにしか思っていなかったのですが、同友会の人たちに出会い仕事への真剣さを聞き続けるにつれ、自分も…という気持ちが大きくなっていました。そこからは毎日の

ように父と怒鳴りあい。そんなもん社長になつてからやれよーという父、社長譲る気ないやろ、いつ譲んねん！と反論する私、ちなみにこの机のへこみは私が激高して膝蹴りしてできたものです(笑)。でもさ、真剣に怒れるくらいに会社のことを考えられるようになってきたのは自分でも驚きでした。

### 負けた原因をずっと父のせいにしてきた

そんなとき大阪の社長の話を聞きまして、もともと荒れていた会社だったのが、前向きになれる朝礼をしたところ社員の気持ちがついになり会社が変わり、今ではその朝礼を見学するために全国から見学者がやってくる、ビックリするほど会社が生まれ変わった。そんな話でした。どれだけ荒れていた会社なのか？を説明したときにいまの萩野塗装とまるで同じでしたので、そこまで変わるのか？とワクワクが止まらなくなり、うちでも取り入れることにしました。でも父に言えば反対されるのは目に見えているので勝手にやることにしました。土曜朝に職人さんを呼び朝礼したいと話したところ案の定イヤな顔、しかしゼネコンさんなら現場安全朝礼があるのは当たり前なので、なんとか理解してもらい少しアレンジして月曜朝にやってみよう。最後に「社長言ください」と父にも言うことが出来て、思っていたほどのアレルギーを感じることなく自然とできたのです。その時思いました。頭だけで考えていてもなかなか進まないけど、勢いで思いついてやってみると意外に簡単に突破できるものだと。

萩野塗装の一階にあがる階段あるじゃない



ですか、いろいろなことを同友会で学んでよーやろうと思うのですが、社長にどうせ反対されるだろう、社員に白い目で見られるだろうなと思うと階段の途中で熱量が冷めてくるんです。頭の中に天使と悪魔がいて階段を登っている途中で言い合いをしている、「学んだことなんだから実践しよー行動したら何か変わる」という天使の私、「どうせみんなに反対されるつて！みんな変化が嫌いなんだから今まで通りがいいぞ、今までもそれでうまくいったんだから何の問題もない」という悪魔の私。階段を登り切ったときにはいつも悪魔の勝利、でもこの日ようやくはじめて天使が勝った。負けた原因をずっと父のせいにしてきたことによりやく気付きました。いざ実際に自分で小さな実践をしたらモヤがあったような階段がぱつと晴れたような気分になったのです。父がと言っている間はまだまだダメ、すべてを自分事にはしないと。1日1ミリでも進化したら今よりも後退することはない、とにかく少しずつ実践することを決めました。

そこからは同友会に参加してからです会社に帰るようになりました。懇親会が終わったらそのまま家に帰っていたのですが、いったん会社に行き気づいたことを全部書き出して行動リストを作る。いきなりとんでもないことは出来なから「笑顔で話す」くらいから始めました。そしてそれを自分だけで終わらすのではなく朝礼の場で話すようにしました。他人に宣誓したほうが行動に移しやすいという狙いもありました。そしてこの朝礼の場をコミュニケーションの場としました。私だけでなく社員さんにも話させる、そうするとその人の人がよく理解できるようになる、情報伝達能力がたかまるとミスが目に見えて減っていきました。